

三宅管内の遺伝資源の収集・評価・保存

【研究概要】

三宅管内にある有用植物の収集、評価を進め、新たな園芸利用について調査する。三宅島に適したレモン類の品種の選定と栽培技術の確立に向けた検討を行う。

- (1) 施設栽培におけるレモン類3品種「里斯ボン」、「ユーレカ」、「ビラフランカ」(各3年生樹)の生育について、樹高および幹径において「ユーレカ」が、樹冠容積においては「里斯ボン」が優れ、施設内空間の多くを占める大きさまで生育したことから、定植2年目より樹勢管理を始める必要があることが分かった。また、果実の生育が露地栽培より2か月程度前進した。面積当たりの収量性は「里斯ボン」、次いで「ユーレカ」の垣根仕立てが高かった。収穫した果実横径から果実重量を推定することができ、選果の際の目安になることや、収穫前に規格別の収穫量の予測につながることが想定された。
- (2) 伝統的に栽培されるサトイモ「赤芽」の輪作候補としてラッカセイ「郷の香」と「おおまさりネオ」の栽培を行った。マルチとべたがけの併用で収量増にはならなかったが、開花が促進され、観光需要が高まる夏季の直売向けに収穫できることが明らかとなった。